

2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年2月2日作成)

小委員会名	バイオクライマティックデザイン小委員会		主 査 名：金子尚志 就任年月：2023年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)		委員長名：大岡龍三 主 査 名：都築和代
設 置 期 間	2023年4月 ～ 2025年3月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>持続可能な建築・都市の実現に向けたアプローチの一つとして、地域の気候特性を把握し、自然環境のポテンシャルと住まい手の環境調整能力を活用するバイオクライマティックデザイン（以下、BD）の設計手法が挙げられる。</p> <p>本小委員会は、亜熱帯から亜寒帯までの多様な気候区を有するわが国やアジア地域の国々の設計事例を対象に、BD手法が適用された「環境建築」を以下1)～4)の観点より評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各地域に有効な BD に関わる技術の統合化 2) 環境建築群としてコミュニティレベルでの BD 技術の効果の分析 3) 住まい手や使用者の温熱的適応を考慮した BD 設計手法の構築 4) BD 手法のアジア地域での適用による国際化 <p>初年度：日本国内やアジア地域の国々における BD 手法を活用した環境建築の事例を収集する。小委員会内の「バイオクライマティックデザインのみつけかた・つくりかた WG」とともにミニシンポジウム（＝勉強会に相当）を年度内に数回実施する。</p> <p>2年度：翌年度に主催する熱シンポジウムの実施に向けた準備を開始。居住者の温熱的適応を考慮した研究成果を纏めて、BD 設計手法を提案する（熱的快適性の適応モデル WG との連携）。継続して、ミニシンポジウム（＝勉強会に相当）を年度内に数回実施する。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：金子尚志（滋賀県立大学） 幹事：佐々木優二（北海道立総合研究機構） 委員：田中稲子（横浜国立大学）、斉藤雅也（札幌市立大学）、菊田弘輝（北海道大学）、大塚弘樹（旭化成建材）、畑中久美子（岐阜市立女子短期大学）、中谷岳史（信州大学）、菅原正則（宮城教育大学）、宇野朋子（武庫川女子大学）、長谷川兼一（秋田県立大学）、廣谷純子（名古屋女子大学）、源城かほり（長崎大学）、細井昭憲（日本女子大学）</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	バイオクライマティックデザインの「みつけかた・つくりかた」WG：環境の「みつけかた」から建築の「つくりかた」へつなげる手法を体系的に整理する。		
2023年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://kankyobio.ajj.or.jp/	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	

大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小委員会を4回開催（第4回は2024.3に開催予定）し、幅広い情報交換と討議を行った。 2. バイオクライマティックデザインの「みつけかた・つくりかた」WGの主催で連続勉強会（ミニシンポジウム）「みつける・つくる 半屋外空間」の第2回を2023.10.28（13:00-15:30/オンライン）に開催できた。ミニシンポジウムでは、スリランカにおけるBD手法を活用した環境建築の事例を基に、BDに関する意見交換を行った（参加者数70名）。
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小委員会はすべて Web ミーティングで開催したため、予算（旅費）を使用することができなかった。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
 *中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2023年度 小委員会活動 自己評価

(**中間年度評価**・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<ol style="list-style-type: none"> 小委員会委員有志の研究室所属学生が、大学間を超えて4グループにまとまり、日本建築学会設計競技「環境と建築」に2023年6月に応募した。また応募作品について、委員会内で学生発表を行った。 2021年に開催されたシンポジウム登壇者によるキーワードをとりまとめた、「バイオクライマティックデザイン・50のことば」(総頁数 p.114) をとりまとめ、バイオクライマティックデザイン小委員会のホームページ上に2023年8月に公開した。 2023年9月の日本建築学会大会にて、オーガナイズドセッション「身近な環境デザインへの配慮」を実施した。 「バイオクライマティックデザインのみつけかた・つくりかた」WGの主催で連続勉強会(ミニシンポジウム)「みつける・つくる 半屋外空間」の第2回を2023年10月28日に開催した。このシンポジウムには70名の方に参加いただいた。実施したアンケートでは、参加者のうち74%が設計事務所であり、設計者・実務者から注目されたシンポジウムであったと考えられる。なお、この活動は、当小委員会が主催する次の熱シンポに向けて継続的に実施して行く予定である。 ミニシンポジウムで得られた情報や知見を踏まえ、次年度の日本建築学会大会におけるパネルディスカッション「半屋内外空間を考える」を企画した。北海道から沖縄までの多様な地域における「半屋内外空間(内よりの外、外よりの内といった領域を有した場所)」に着目して議論することを検討している。 「バイオクライマティックデザインのみつけかた・つくりかた」WGの主催で連続勉強会(ミニシンポジウム)「みつける・つくる 半屋外空間」の第3回を企画し、「寒冷地域の半屋内外空間を考える」と題し、2024年4月20日に開催することが決定した。 			

●総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。

●中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。

A評価:小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度

B評価:小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度

C評価:小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度

D評価:小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度

●小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。